

## 原 著

豪雪地帯農村部において生活支援の担い手となる意向を持つ  
高齢者の特性イトウ カイ ムラヤマ ヒロシ タグチ アツコ オオモリ ジュンコ  
伊藤 海\* 村山 洋史<sup>2\*</sup> 田口 敦子<sup>3\*</sup> 大森 純子\*

**目的** 高齢化の進展に伴い、心身機能の低下により日常生活に支援を必要とする高齢者が増加していることから、近年、生活支援の担い手となる地域住民の拡充が求められている。中でも、生活支援の担い手となり得る地域住民として、高齢者が携わることにより期待が寄せられている。本研究では、生活支援の担い手への意向を持つ高齢者の特性を、細分類した生活支援内容ごとに明らかにすることを目的とした。

**方法** 対象者は吉島地区に在住し、要介護1～5の要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者全数である801人とした。自治会長および隣組長による全戸訪問にて、調査票を配布・回収した。データの収集期間は2018年6～7月であった。調査項目は、基本属性、健康状態、近隣との社会関係、8種類の生活支援内容であった。分析は、実施意向の有無を従属変数、基本属性、健康状態、近隣付き合いの程度の各変数を独立変数とするロジスティック回帰分析を支援内容ごとに行った。

**結果** 分析対象者は586人であった（有効回答率73.2%）。実施意向に関連していた特性は、性別では、女性であるほど「話し相手・困った時の相談相手」、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」、「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」への意向が強く、「庭仕事や畑作業などの外回り作業」、「雪かき・雪下ろし」への意向が弱かった。暮らし向きでは、よいと回答した人ほど「通院の送迎や付き添い」への意向が弱く、最終学歴が高いほど「話し相手・困った時の相談相手」、「見守り・安否確認」への意向が強かった。手段的自立評価が高いほど「話し相手・困った時の相談相手」、「見守り・安否確認」、「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」、「買い物同行・代行」への意向が強かった。また、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」「庭仕事や畑作業などの外回り作業」以外の6種類の支援内容では、近隣との付き合いの程度が密である者ほど実施意向が有意に強かった。

**結論** 支援内容によって意向する高齢者の特性が異なることが明らかになった。これらを考慮した上で、担い手の募集や仲介を行うことにより、生活支援への担い手の拡充が期待できる。

**Key words** : 生活支援, 高齢者, 支援の担い手, 豪雪地帯, 農村部

日本公衆衛生雑誌 2020; 67(12): 860-870. doi:10.11236/jph.67.12\_860

## I 緒 言

近年、生活支援の担い手となる地域住民の拡充が求められている<sup>1)</sup>。その背景として、高齢化の進展に伴い、要介護状態までは至らないものの、心身機能の低下により日常生活に支援を必要とする高齢者

が増加していることがある<sup>2,3)</sup>。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できない状況に陥らないためには、見守りや外出支援等の多様なニーズに対応した生活支援の提供が必要である<sup>4)</sup>。介護の必要性がさほど高くない高齢者に対して、必要時に地域住民によるインフォーマルな生活支援が提供される体制を整うことは、介護資源の有効活用にもつながる<sup>4)</sup>。

この背景に加えて、介護保険法の一部改正により、平成27年から介護予防・日常生活支援総合事業が開始されたことがある。これにより、多様な主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供

\* 東北大学大学院医学系研究科

<sup>2\*</sup> 東京大学高齢社会総合研究機構

<sup>3\*</sup> 慶應義塾大学看護医療学部

責任著者連絡先: 〒252-0883 藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学看護医療学部 田口敦子

が重視されるようになった<sup>5)</sup>。市町村では、地域住民の中から生活支援の担い手を発掘・養成し、活動の場を確保する取り組みが推奨されている。中でも、高齢者が担い手として携わることに期待が寄せられている<sup>5)</sup>。高齢者にとっては社会参加の機会と捉えられ、自身の主観的健康観の保持向上<sup>6)</sup>や介護予防<sup>7)</sup>にもつながる。しかし、実情は民生委員など少数の住民によって担われているに過ぎず、担い手の量的拡大を図る方策を探ることが求められている<sup>8)</sup>。まず、支援の担い手を発掘する必要がある、効果的に募集や仲介するためには、生活支援の担い手への実施意向を持つ高齢者の特性を考慮した上で、意図的に働きかけることが有効であると考えられる。しかし、その働きかけに有効な特性は国内外において十分に明らかになっていない。

高齢者を対象とした生活支援には見守り支援、外出支援等の多様な支援内容が存在する。これまでの実施意向を持つ高齢者の特性を検討した調査では、多様な生活支援をひと括りに扱った調査<sup>9~11)</sup>や、見守り活動等の単一の生活支援に特化した調査<sup>12)</sup>によって検討されてきた。その観点では、生活支援の実施意向に関連する特性として、性別や年齢、暮らし向き、健康状態<sup>11)</sup>、近隣との交流<sup>9,10,12)</sup>が関連することが報告されている。しかし、前述の通り支援内容が多岐に亘ることから、支援内容ごとに担い手を意向する者の特性は異なることが推察される。よって、支援内容を細分類した上で、担い手への実施意向を持つ高齢者の特性を明らかにすることは、担い手の公募や仲介に有益な視点を与えると考えられる。また、生活支援に取り組む高齢者を増やすことがいまだ課題となっていることを鑑みると、担い手の拡充に向けて有益な視点を模索することは急務である。そこで本研究では、生活支援の担い手への意向を持つ高齢者の特性を、細分類した生活支援内容ごとに明らかにすることを目的とした。

生活支援の担い手への意向(以下、実施意向)は、生活支援の受け手が持つニーズに応じて生じるものである<sup>13)</sup>ため、高齢者人口や既存の生活支援のサービスの提供量、気候条件に影響を受けると考えられる。具体的には、農村部は都市部に比べると高齢化の速度が都市部に比べて速く<sup>14)</sup>、生活支援を提供する事業者が少ない<sup>15)</sup>特徴がある。気候条件においては、積雪の多い地域では冬場の重要な生活支援ニーズに雪かきが生じること<sup>16,17)</sup>も同様である。従って、地域特性を考慮する必要があると考え、本研究では豪雪地帯農村部に焦点を当てた。

また、今回は、対象者が実際に生活支援を実施しているかどうかではなく、生活支援の担い手に実施

意向を持っているかどうかを問うことで、すでに支援に取り組んでいる高齢者だけでなく、関心はあるが活動していない潜在的な支援の担い手も含めて検討していくことにした。

## II 研究方法

### 1. 研究デザイン

本研究のデザインは、無記名自記式質問紙調査による横断研究であった。

### 2. 用語の定義

本研究で扱う「生活支援」という用語は既存の文献<sup>18,19)</sup>を参考に「高齢者が抱く日常生活における困りごとが解決され、住み慣れた地域で尊厳を保持し自分らしい生活を送ることができるように支援すること」と定義した。

### 3. 研究対象地域

対象地域は、山形県川西町吉島地区であった。川西町の人口は15,428人であり、高齢化率は35.3%であった(2018年3月現在)<sup>20)</sup>。吉島地区は川西町の北東部に位置する人口2,533人であり、高齢化率は35.0%の地区であった(2017年3月現在)<sup>21)</sup>。川西町は農業が盛んで、山形県でも有数の米どころとして知られている地域である。農林水産省の示す農村区分においては、吉島地区は平地農業地域(水田型)にあたる。また、豪雪地帯対策特別措置法により、特別豪雪地帯に指定されている。

### 4. 研究対象者

対象者は吉島地区に在住し、要介護1~5の要介護認定を受けていない2019年3月31日時点で65歳以上の高齢者全数である801人とした。要介護1~5の認定者を除外した理由は、心身状態の変動のため介護を受ける機会が多く、担い手としての意向を持つことが難しい者が多いと考えたためであった。

本研究は東北大学大学院医学系研究科倫理委員会の承認を得て行った(承認番号:2018-1-116,2018年5月28日承認)。

### 5. データ取得方法

調査票の配布は、吉島地区で活動する特定非営利活動法人きらりよしじまネットワークの協力のもと実施した。きらり吉島は、地域の活性化や安心・安全なまちづくりを目指す地域運営組織として機能している。本研究ではきらりよしじまネットワークが日ごろ活用する地域連絡網の中核をなす自治会長および隣組長による全戸訪問にて、対象者のもとに調査票を配布した。自治会長および隣組長には、調査票配布前に研究実施者が研究目的・実施方法等の説明を行った。

調査票配布後、2週間程度の期間を置いて自治会

長および隣組長が対象者の居宅へ再訪問し、封筒に厳封された状態の調査票を回収した。回収された調査票は、その状態のままきりよしまネットワークのもとに集約され、その後、研究実施者に受け渡され、開封された。データの収集期間は2018年6～7月であった。

## 6. 調査内容

対象者の特性に関する調査項目は、先行研究<sup>9～12,22～24)</sup>を参考に、生活支援の実施意向の有無に関連があると考えられた項目を選定した。

### 1) 生活支援の実施意向の有無

生活支援の担い手への意向については、生活支援を「地域住民の日常生活の困りごとを解決するための支援」と定義した上で、「生活支援に取り組みたいと思うか」を尋ねた。生活支援内容を区分しない「生活支援全般」に対して実施意向を尋ねた後に、実施意向があると回答した人には8種類の生活支援内容を挙げ、複数回答可として取り組む意向のある支援内容を選択してもらった。選択の有無により「実施意向あり」「実施意向なし」とした。

8種類の生活支援内容は、以下の手順で選定した。まず、生活支援に関する既存文献<sup>19,25,26)</sup>や研究対象地域での高齢者8人へのヒアリングをもとに、高齢者が感じる生活支援ニーズの支援内容を網羅的に挙げた。次に、特徴の異なる支援内容ごとに分類し抽象度を揃えた。その結果、「話し相手・困った時の相談相手」、「見守り・安否確認」、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」、「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」、「買い物の同行・代行」、「通院の送迎や付き添い」、「庭仕事や畑作業などの外回り作業」、「雪かき・雪下ろし」の8種類が選定された。

### 2) 基本属性

性別、年齢、暮らし向き、最終学歴、配偶者の有無、就労の有無を尋ねた。

### 3) 健康状態

地域在宅高齢者の健康状態を把握するには有用な指標であるとされている老研式活動能力指標の下位尺度のうち、手段的自立動作を評価するのに用いる5項目を尋ねた<sup>27)</sup>。この指標では、「はい」の回答に1点、「いいえ」に0点を与えた(範囲:0-5)。この指標では、「はい」の回答に1点、「いいえ」に0点が与え、5点満点の者を「良好」とし、4点以下の者を「不良」とした。手段的自立動作は、日常生活動作の中でも家事や移動等の複雑で高次な動作とされている。得点が高い程自立度が高いことを示す。

### 4) 近隣との社会関係

近隣付き合いの程度は、より近隣付き合いが密で

ある順に、「互いに相談したり、物の貸し借りをする程度」「世話をする程度」「あいさつをする程度」「ほとんどつきあいはない」の4段階で尋ねた。分析では、「ほとんどつきあいはない」の回答者が13人と少数であったため、「あいさつをする程度」と「ほとんどつきあいはない」の項目を合わせて3値で分析を行った。

## 7. 分析方法

基本統計量を算出した後、実施意向の有無と基本属性、健康状態、近隣付き合いの程度の各変数の関連を検討するため、独立性の検定( $\chi^2$ 検定, Fisherの正確確率検定)を行った。Fisherの正確確率検定は最小期待値が5未満であった場合に実施した。次に、各支援内容の実施意向に影響を与える要因を検討するため、実施意向の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析を、生活支援内容ごとに行った。独立変数には、基本属性として性別、年齢、暮らし向き、最終学歴、配偶者の有無、就労の有無を、健康状態として手段的自立動作を、加えて近所づきあいの程度を投入した。また、生活支援全般の実施意向についても同様に分析した。オッズ比(Odds Ratio: OR)と95%信頼区間(95% Confidence Interval; 95% CI)を用いて検討した。ロジスティック回帰分析を行う前には、投入する独立変数間の多重共線性を確認するためSpearmanの順位相関係数を算出した。年齢区分と就労の有無に $|r|=0.409$ と中程度の相関がみられたものの、分析結果に影響するような共線性は認められなかった。その他の変数間においては $|r|<0.4$ であり、変数間の相間による多重共線性の問題は起こらないと判断した。変数選択は強制投入法、統計的有意水準は両側5%とした。モデルの適合性を評価するため、Hosmer-Lemeshow検定を実施した。各変数では欠損値を除外したため、有効回答数が常に同一とはならなかった。統計解析ソフトはIBM SPSS Statistics 21.0 for Windowsを使用した。

## III 研究結果

配布した801票のうち、回収された調査票は726票であった(回収率90.6%)。回収された調査票から、長期入院中・施設入所中と回答のあった票や、無回答で返信された票、大半の質問項目が未記入であった票、生活支援の実施意向の有無および意向する支援内容の項目が未記入であった票を除いた586票を分析対象とした(有効回答率:73.2%)。

対象者の基本属性を表1に示した。男性は276人(47.1%)、女性は310人(52.9%)、年齢では前期高齢者(65-74歳)は317人(54.1%)、後期高齢者

表1 対象者の基本属性および健康状態, 社会関係  
n = 586

	全 体 n = 586	
	n	%
性別		
男性	276	47.1
女性	310	52.9
年齢		
前期高齢者/後期高齢者区分		
前期高齢者 (65-74歳)	317	54.1
後期高齢者 (75歳以上)	269	45.9
暮らし向き		
ゆとりがある/普通	422	72.0
苦しい	154	26.3
最終学歴		
中学校以下	167	28.5
高等学校/短大・専門学校・大学	407	69.5
配偶者の有無		
配偶者がいる	421	71.8
配偶者がいない	153	26.1
就労の有無		
収入を得る仕事あり	202	34.5
収入を得る仕事なし	356	60.8
手段的自立評価		
良好 (5点満点)	442	75.4
不良 (5点未満)	113	19.3
近隣付き合いの程		
互いに相談したり, 物の貸し借りをする程度	158	27.0
世間話をする程度	271	46.2
あいさつをする程度	123	21.0
ほとんどつきあいはない	13	2.2

\* 手段的自立評価 (得点が高い程自立), 無回答は記載せず

(75歳以上) は269人 (45.9%) であった。

### 1. 高齢者が実施意向を持つ生活支援内容 (表2)

全対象者のうち, 実施意向のある者は57.8%, 実施意向のない者は42.2%であった。8種類の支援内容別の意向では, 最も多かったのは「話し相手・困った時の相談相手」53.7%であり, 次に「見守り・安否確認」41.7%, 「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」27.4%, 「買い物の同行・代行」20.3%, 「庭仕事や畑作業などの外回り作業」18.0%, 「通院の送迎や付き添い」13.7%, 「雪かき・雪下ろし」13.1%, 「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」6.3%の順に多かった。

### 2. 生活支援内容の実施意向者の特性

生活支援内容全般および生活支援内容ごとの実施

表2 実施意向ありと回答した人の生活支援の実施意向内容 (複数回答)  
n = 586

	n	%
実施意向なし	247	42.2
実施意向あり	339	57.8
実施意向ありと回答した人 (n = 339) の生活支援への実施意向内容 (複数回答)		
話し相手, 困ったときの相談相手	188	53.7
見守り・安否確認	146	41.7
気軽に参加できる集まりやイベントに誘う	96	27.4
買い物の同行・代行	71	20.3
庭仕事や畑作業などの外回りの作業	63	18.0
通院の送迎や付き添い	48	13.7
雪かき・雪下ろし	46	13.1
食事の準備や掃除・洗濯の手伝い	22	6.3

意向の有無と, 基本属性, 手段的自立, 近隣付き合いの程度とのクロス集計の結果を表3に示した。また, 生活支援内容全般および生活支援内容ごとの実施意向の有無を従属変数とし, 基本属性, 手段的自立, 近隣付き合いの程度を独立変数としたロジスティック回帰分析の結果を表4に示した。すべてのロジスティック回帰分析において, モデル $\chi^2$ 検定の結果は $P < 0.05$ で有意であり, Hosmer-Lemeshow検定結果は $P \geq 0.05$ であった。

生活支援内容全般では, 手段的自立評価 (OR : 2.21, 95%CI : 1.33-3.66) が高い, 近所づきあいの程度 (1.79, 1.38-2.33) が高いほど意向が強かった。

生活支援内容ごとの実施意向に関連していた特性は, 以下の通りであった。性別では, 女性であるほど「話し相手・困った時の相談相手」(1.57, 1.04-2.37), 「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」(9.37, 2.05-42.83), 「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」(2.62, 1.52-4.52), への意向が強く, 女性であるほど「庭仕事や畑作業などの外回り作業」(0.28, 0.14-0.56), 「雪かき・雪下ろし」(0.11, 0.04-0.33) への意向が弱かった。

また, 暮らし向きがよいと回答した人ほど「通院の送迎や付き添い」(0.43, 0.21-0.88) への意向が弱く, 最終学歴が高いほど「話し相手・困った時の相談相手」(1.66, 1.04-2.67), 「見守り・安否確認」(1.77, 1.04-3.03) への意向が強かった。

手段的自立評価が高いほど「見守り・安否確認」(3.29, 1.54-7.03), 「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」(2.79, 1.21-6.42), 「買い物の同行・代行」(14.63, 1.94-110.23), 「通院の送迎や付き添

表3-1 生活支援の実施意向と基本属性、健康状態、社会関係のクロス集計

	生活支援全般				話し相手				見守り				食事の準備や				気軽に参加できる				
	意向あり		意向なし		意向あり		意向なし		意向あり		意向なし		意向あり		意向なし		意向あり		意向なし		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
性別	P値																				
男性	154	45.4	122	49.4	70	37.2	206	51.8	70	47.9	84	19.1	2	9.1	274	48.6	28	29.2	248	50.6	<0.001
女性	185	54.6	125	50.6	118	62.8	192	48.2	76	52.1	109	24.8	20	90.9	290	51.4	68	70.8	242	49.4	<0.001
年齢	P値																				
前期高齢者 (65-74歳)	192	56.6	125	50.6	96	51.1	221	55.5	96	65.8	221	50.2	15	68.2	302	53.5	50	52.1	267	54.5	0.257
後期高齢者 (75歳以上)	147	43.4	122	49.4	92	48.9	177	44.5	50	34.2	219	49.8	7	31.8	262	46.5	46	47.9	223	45.5	0.354 <sup>a</sup>
暮らし向き	P値																				
ゆとりがある	23	6.78	19	7.69	15	7.98	27	6.78	8	5.48	34	7.73	0	0.0	42	7.45	11	11.5	31	6.33	0.038
ふつう	220	64.9	160	64.8	121	64.4	259	65.1	91	62.3	289	65.7	17	77.3	363	64.4	67	69.8	313	63.9	
苦しい	91	26.8	63	25.5	49	26.1	105	26.4	43	29.5	111	25.2	4	18.2	150	26.6	17	17.7	137	28	
最終学歴	P値																				
中学校以下	88	26	79	32	45	23.9	122	30.7	24	16.4	143	32.5	4	18.2	163	28.9	20	20.8	147	30	0.128 <sup>a</sup>
高等学校	208	61.4	139	56.3	116	61.7	231	58.0	95	65.1	252	57.3	13	59.1	334	59.2	63	65.6	284	58	
短大・専門学校・大学	37	10.9	23	9.3	25	13.3	35	8.8	25	17.1	35	7.95	5	22.7	55	9.75	11	11.5	49	10	
配偶者の有無	P値																				
配偶者がいる	232	68.4	163	66.0	127	67.6	294	73.9	116	79.5	305	69.3	18	81.8	403	71.5	72	75	349	71.2	0.502
配偶者がいない	102	30.1	76	30.8	58	30.9	95	23.9	28	19.2	125	28.4	4	18.2	149	26.4	23	24	130	26.5	
就労の有無	P値																				
仕事あり	125	36.9	77	31.2	57	30.3	145	36.4	69	47.3	133	30.2	8	36.4	117	20.7	33	34.4	169	34.5	0.902
仕事なし	196	57.8	160	64.8	118	62.8	238	59.8	73	50	283	64.3	12	54.5	184	32.6	58	60.4	298	60.8	
手段的自立評価	P値																				
良好 (5点)	277	81.7	165	66.8	153	81.4	289	72.6	132	90.4	310	70.5	19	86.4	423	75	85	88.5	357	72.9	0.276 <sup>a</sup>
不良 (4点以下)	48	14.2	65	26.3	31	16.5	82	20.6	11	7.53	102	23.2	2	9.1	111	19.7	8	8.3	105	21.4	
近隣付き合いの程度	P値																				
互いに相談したり、物の貸し借りをする程度	110	32.4	48	19.4	58	30.9	100	25.1	46	31.5	112	25.5	9	40.9	149	26.4	38	39.6	120	24.5	0.491 <sup>a</sup>
世間話をする程度	161	47.5	110	44.5	95	50.5	176	44.2	75	51.4	196	44.5	9	40.9	262	46.5	46	47.9	225	45.9	
あいさつをする程度	55	16.2	68	27.5	26	13.8	97	24.4	21	14.4	102	23.2	3	13.6	120	21.3	10	10.4	113	23.1	
ほとんどつきあいはない	1	0.29	12	4.86	0	0	13	3.27	1	0.68	12	2.73	0	0	13	2.3	0	0	13	2.65	

a : Fisherの正確率検定, 無印: カイ二乗検定  
 欠損値は除外して統計処理を行ったため各項目の合計は一致していない  
 \* 手段的自立評価 (得点が高い程自立), 近隣付き合いの程度 (得点が高い程近所づきあいが密)

表3-2 生活支援の実施意向と基本属性、健康状態、社会関係のクロス集計

	買い物の同行・代行						通院の送迎や付き添い						庭仕事や畑作業などの外回り作業						雪かき雪下ろし					
	意向あり			意向なし			意向あり			意向なし			意向あり			意向なし			意向あり			意向なし		
	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	P 値	n	%	
性別	34	47.9	242	47.0	0.998	26	54.2	250	46.5	0.383	43	68.3	233	44.6	<0.001	39	84.8	237	43.9	<0.001	7	15.2	303	56.1
男性	37	52.1	273	53.0		22	45.8	288	53.5		20	31.7	290	55.4		7	15.2	303	56.1		35	76.1	282	52.2
女性	49	69.0	268	52.0	<0.001	26	54.2	291	54.1	1.000	42	66.7	275	52.6	0.047	11	23.9	258	47.8	<0.001	35	76.1	282	52.2
年齢	22	31.0	247	48.0	0.593	22	45.8	247	45.9	0.118 <sup>a</sup>	21	33.3	248	47.4	0.133 <sup>a</sup>	11	23.9	258	47.8	0.376 <sup>a</sup>	35	76.1	282	52.2
前期高齢者 (65-74歳)	4	5.63	38	7.38		3	6.3	39	7.25		1	1.6	41	7.8		3	6.52	39	7.2		35	76.1	282	52.2
後期高齢者 (75歳以上)	44	62.0	336	65.2		26	54.2	354	65.8		42	66.7	338	64.6		26	56.5	354	65.6		35	76.1	282	52.2
暮らし向き	22	31.0	132	25.6	0.057	19	39.6	135	25.1	0.764	20	31.7	134	25.6	0.490	16	34.8	138	25.6	0.539 <sup>a</sup>	16	34.8	138	25.6
ひとりがある	21	29.6	146	28.3		12	8.22	155	35.2		14	22.2	153	29.3		14	30.4	153	28.3		14	30.4	153	28.3
ふつう	37	52.1	310	60.2		29	19.9	318	72.3		41	65.1	306	58.5		23	50	324	60		23	50	324	60
苦しい	13	18.3	47	9.13		6	4.11	54	12.3		6	9.5	54	10.3		6	13	54	10		6	13	54	10
最終学歴	248	73.2	173	70.0	0.137	42	87.5	379	70.4	0.032	51	81.0	370	70.7	0.195	38	82.6	383	70.9	0.114	38	82.6	383	70.9
中学校以下	87	25.7	66	26.7		6	12.5	147	27.3		12	19.0	141	27		7	15.2	146	27.0		7	15.2	146	27.0
配偶者がいる	31	43.7	171	33.2	0.091	18	37.5	184	34.2	0.607	29	46.0	173	33.1	0.030	26	56.5	176	32.6	<0.001	26	56.5	176	32.6
配偶者がいない	36	50.7	320	62.1		26	54.2	330	61.3		29	46.0	327	62.5		17	37.0	339	62.8		17	37.0	339	62.8
就労の有無	65	91.5	377	73.2	<0.001	38	79.2	404	75.1	0.404	53	84.1	389	74.4	0.136	38	82.6	404	74.8	0.139	38	82.6	404	74.8
仕事あり	3	4.2	110	21.4		7	14.6	106	19.7		8	12.7	105	20.1		5	10.9	108	20		5	10.9	108	20
仕事なし	28	39.4	130	25.2	0.051 <sup>a</sup>	18	37.5	140	26	0.267 <sup>a</sup>	24	38.1	134	25.6	0.107 <sup>a</sup>	16	34.8	142	26.3	0.271 <sup>a</sup>	16	34.8	142	26.3
手段的自立評価	31	43.7	240	46.6		20	41.7	251	46.7		23	36.5	248	47.4		20	43.5	251	46.5		20	43.5	251	46.5
良好 (5点)	10	14.1	113	21.9		7	14.6	116	21.6		11	17.5	112	21.4		5	10.9	118	21.9		5	10.9	118	21.9
不良 (4点以下)	0	0	13	2.5		0	0	13	2.42		0	0	13	2.49		1	2.17	12	2.22		1	2.17	12	2.22
近隣付き合いの程度																								
互いに相談したり、物の貸し借りをする程度																								
世間話をする程度																								
あいさつをする程度																								
ほとんどつきあいはない																								

a : Fisher の正確率検定, 無印 : カイ二乗検定

欠損値は除外して統計処理を行ったため各項目の合計は一致していない

\* 手段的自立評価 (得点が高い程自立), 近隣付き合いの程度 (得点が高い程近所づきあいが密)

表4 生活支援内容の実施意向と個人属性, 健康状態, 社会関係の関連

	生活支援全般		話し相手 困った時の 相談相手		見守り 安否確認		食事の準備や 掃除・洗濯の 手伝い		気軽に参加 できる集まりや イベントに誘う	
	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI
性別 (ref: 男性)	1.175	0.79-1.74	1.57	1.04-2.37	1.17	0.75-1.80	9.37	2.05-42.83	2.62	1.52-4.52
年齢区分 (ref: 前期高齢者)	1.076	0.69-1.68	1.41	0.89-2.25	1.14	0.69-1.87	0.86	0.23-3.18	1.51	0.84-2.71
暮らし向き (ref: 苦しい)	0.766	0.50-1.18	0.80	0.51-1.26	0.62	0.39-1.01	0.85	0.25-2.85	1.31	0.70-2.45
最終学歴 (ref: 中学校)	1.17	0.76-1.80	1.66	1.04-2.67	1.77	1.04-3.03	1.34	0.35-5.15	1.61	0.85-3.05
配偶者の有無 (ref: なし)	1.00	0.64-1.59	0.82	0.51-1.32	1.54	0.89-2.68	3.37	0.69-16.49	1.61	0.85-3.02
就労の有無 (ref: なし)	1.00	0.64-1.55	0.76	0.48-1.20	1.55	0.97-2.49	1.67	0.54-5.12	0.87	0.49-1.55
手段的自立評価 (ref: 不良)	2.211	1.33-3.66	1.69	0.97-2.96	3.29	1.54-7.03	1.13	0.21-6.11	2.79	1.21-6.42
近隣付き合いの程度 (ref: ほとんどつきあいはない またはあいさつをする程度)	1.792	1.38-2.33	1.44	1.09-1.89	1.36	1.02-1.82	1.70	0.80-3.61	1.84	1.28-2.65

  

	買い物の 同行・代行		通院の送迎 や付き添い		庭仕事や畑作業 などの 外回り作業		雪かき 雪下ろし	
	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI
性別 (ref: 男性)	0.95	0.53-1.68	0.76	0.37-1.55	0.28	0.14-0.56	0.11	0.04-0.33
年齢区分 (ref: 前期高齢者)	0.72	0.37-1.42	1.75	0.80-3.82	0.60	0.29-1.25	0.39	0.15-1.04
暮らし向き (ref: 苦しい)	0.67	0.37-1.25	0.43	0.21-0.88	0.73	0.38-1.40	0.68	0.30-1.54
最終学歴 (ref: 中学校)	0.77	0.40-1.48	1.22	0.53-2.79	1.08	0.53-2.21	0.60	0.26-1.41
配偶者の有無 (ref: なし)	1.39	0.65-3.00	3.08	1.01-9.43	0.85	0.39-1.87	1.22	0.38-3.90
就労の有無 (ref: なし)	1.08	0.59-1.97	1.05	0.48-2.29	1.15	0.59-2.22	1.87	0.81-4.34
手段的自立評価 (ref: 不良)	14.63	1.94-110.23	4.64	1.04-20.72	1.34	0.51-3.49	1.52	0.41-5.67
近隣付き合いの程度 (ref: ほとんどつきあいはない またはあいさつをする程度)	1.50	1.02-2.21	1.69	1.05-2.72	1.49	0.99-2.25	1.93	1.15-3.25

OR: オッズ比 95%CI: 95%信頼区間 ref: 参照カテゴリー

- 2項ロジスティック回帰分析を実施
- 従属変数は, 生活支援の施意向あり=1, 実施意向なし=0とした。
- 独立変数は, 「性別 (男性・女性)」, 「年齢 (前期高齢者・後期高齢者)」, 「暮らし向き (ふつう以上・苦しい)」, 「最終学歴 (中学校以下・高等学校以上)」, 「配偶者 (あり・なし)」, 「就労 (あり・なし)」, 「手段的自立評価 (良好・不良)」, 「近隣付き合いの程度 (互いに相談したり物の貸し借りをする程度・世間話をする程度・あいさつをする程度またはほとんどつきあいはない)」とした。
- 変数選択は強制投入法, すべてのロジスティック回帰分析において Hosmer-Lemeshow の検定結果は  $P \geq 0.05$

い」(4.64, 1.04-20.72)への意向が強かった。近隣付き合いの程度が高いほど「話し相手・困った時の相談相手」(1.44, 1.09-1.89), 「見守り・安否確認」(1.36, 1.02-1.82), 「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」(1.84, 1.28-2.65), 「買い物の同行・代行」(1.50, 1.02-2.21), 「通院の送迎や付き添い」(1.67, 1.05-2.72), 「雪かき・雪下ろし」(1.93, 1.15-3.25)の実施意向が強かった。

#### Ⅳ 考 察

##### 1. 生活支援の実施意向の実態

本調査では, 回答者の57.8%が生活支援の担い手になることへの意向を示した。農村部は人口減少が

都市部よりも民間サービスの導入やマンパワーの確保が著しく難しい状況にある。今回明らかになった生活支援の実施意向のある高齢者を発掘することは, 高齢者の在宅生活を支える上では鍵となる。

支援内容ごとの実施意向をみると, 実施意向のある者のうち53.7%が「話し相手・困った時の相談相手」を, 41.7%が「見守り・安否確認」を挙げていた。一方で, 「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」は6.3%に止まった。この結果より, 担い手が意向を持ちやすい支援内容とそうでないものがあることが分かる。食事の準備や掃除・洗濯は, 支援の受け手の家の中に入る必要があるため, 担い手にとって抵抗を持ちやすい支援内容であることが推察され

る。今回、実施意向が低かった支援内容は、公的なサービス等、住民以外の支援者の提供を検討する必要があると考えられた。

## 2. 生活支援の実施意向に関連する高齢者の特性

支援内容ごとにみると実施意向に関連する特性は異なっていた。まず、実施意向を持つ支援内容に性差がみられた点についてである。本調査においては「話し相手・困った時の相談相手」「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」といった活動には女性が意向を持ちやすく、「庭仕事や畑作業などの外回り作業」、「雪かき・雪下ろし」は男性が意向を持ちやすいという結果であった。先行研究では、高齢女性が参加しやすい社会活動は、身近な人たちとの気遣い・心遣いを通じた関わりや、集まりへの参加を通じた他者との直接的な交流<sup>28)</sup>であることが報告されている。生活支援においても、女性は高齢者の孤立防止につながる精神的な支援や社会参加支援への意向を持ちやすいと考えられた。また、家庭での家事経験を活かすことができる家事援助支援へも意向を持ちやすいと考えられた。一方、男性は、おしゃべりやふれあいを主たる目的とした活動を志向しにくい<sup>29)</sup>ことや、体力を必要とする活動に社会的役割を求める<sup>30)</sup>とされている。そのため、生活支援において「庭仕事や畑仕事の外回り作業」や「雪かき・雪下ろし」といった屋外で身体を動かす力仕事といった支援内容に意向を持ちやすいと考えられた。

また、暮らし向きが苦しいと回答した人ほど「見守り・安否確認」「通院の送迎や付き添い」への意向を持っていた。三谷<sup>9)</sup>の先行研究によると、本研究とは対象者は異なる青壮年期であるが、家族以外の高齢者に対する介助や話し相手には低収入ほど意向を持つことが確認されており、本研究と一致した結果であった。本邦では、今回扱った生活支援といったインフォーマルな援助行為が、経済状況や学歴等の社会階層が低い人々によって担われているという報告はいくつかある<sup>31,32)</sup>。しかし、本研究の学歴では、最終学歴が高いほど「話し相手・困った時の相談相手」「見守り・安否確認」への意向が高く、一致しない結果もあったことから、経済状況や学歴の関連についてはさらなる検討が必要であろう。

次に、「話し相手・困った時の相談相手」「見守り・安否確認」「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」「買い物の同行・代行」「通院の送迎や付き添い」では手段的自立評価が良好な者ほど実施意向を持っていた。「見守り・安否確認」「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」「買い物の同行・代行」「通院の送迎や付き添い」は、場合によって

は遠方への移動を伴うことや、「見守り・安否確認」や「通院の送迎や付き添い」では、緊急時には臨機応変な対応が求められることも想定される。そのため、自身の生活機能を高次と評価できない場合は実施意向を持ちにくい可能性が考えられた。

また、今回、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」「庭仕事や畑作業などの外回り作業」以外の6種類の支援内容では、近隣との付き合いの程度が密である者ほど実施意向が強かった。先行研究でも、親しい友人や仲間の多さが、高齢者による友人・近隣への援助活動の促進要因になり得る<sup>24)</sup>ことが報告されており、類似した結果であった。高齢者の支援に至るには、支援の対象となる人の状況に共感を抱くことが影響すると言われている<sup>9)</sup>。近隣との親密な付き合いを持つことは、近隣住民の生活上の困り事への共感を抱くことにつながり、結果、幅広い生活支援内容の意向につながったと考えられる。手段的自立評価と近所づきあいの程度は、生活支援全般において意向の有無との関連が認められたことから、生活支援内容を区分せずに検討する際にも重要な特性と言えよう。

本研究では、支援内容によって意向する高齢者の特性が異なることを示すことができた。生活支援の担い手の拡充に向けた課題として、生活支援への関心はあるが活動していない潜在的な担い手へのアプローチや、困りごとを抱える者と支援を提供できる者をつなぐ仲介機能の強化の必要性が挙げられている<sup>33)</sup>。今回明らかにした特性を考慮した上で、担い手の募集や仲介を行うことにより、生活支援への担い手の拡充が期待できる。さらに、生活支援の必要者と担い手のマッチングがスムーズに行われることで、両者の心身の健康維持・向上にもつながり得ると考えられた<sup>5~7)</sup>。

## 3. 研究の限界と意義

第一に、本研究は横断研究であるため、因果関係を結論づけることは出来ない。因果関係を説明するには、縦断的な研究が必要である。第二に、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」等、実施意向の有無において「実施意向あり」と回答した者が少なかった。該当数が少ない支援内容においてはサンプルサイズを増やすことで、より結果の妥当性を確保できる。第三に、対象地域を豪雪地帯農村部という区分で捉えたが、この特徴を持つ地域においても、それぞれ過疎化の状況や住民の気質に差があると考えられる。したがって、一般化の際には留意が必要である。第四に、支援の実施意向の有無に関連する高齢者の特性を十分に明らかにできたとはいえない。今後の課題として、他者への共感性など社会関係に関



する項目を増やして検討を行う等、支援の担い手となり得る高齢者の特性を多元的に捉えることが必要である。

これらの限界はあるものの、本研究で、生活支援の担い手となる意向を持つ高齢者の特性を明らかにしたことは、豪雪地帯農村部の地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援への担い手の拡充を促進するための基礎的な知見をもたらした点で意義があるといえる。

## V 結 語

本研究は、生活支援の担い手への実施意向を持つ高齢者の特性を、細分類した生活支援内容ごとに明らかにすることを目的に豪雪地帯農村部に暮らす高齢者を対象に調査した。その結果、実施意向を持つ支援内容に性差がみられた。「話し相手・困った時の相談相手」「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」といった活動においては女性が意向を持ちやすく、「庭仕事や畑作業などの外回り作業」「雪かき・雪下ろし」は男性が意向を持ちやすかった。「見守り・安否確認」「気軽に参加できる集まりやイベントに誘う」「買い物の同行・代行」「通院の送迎や付き添い」には手段的自立評価が良好な者ほど実施意向を持っていた。また、「食事の準備や掃除・洗濯の手伝い」以外の支援内容で、近隣との付き合いの程度が高い者ほど実施意向が強かった。支援内容によって意向する高齢者の特性が異なることを考慮した上で、担い手の募集や仲介を行うことにより、生活支援への担い手の拡充が期待できる。

本研究を行うにあたり、調査にご協力いただきました特定非営利活動法人きらりよししまネットワークの皆様をはじめ、地域の皆様に深く感謝いたします。

本研究は、平成30年度科学研究費助成事業 基盤研究(B)「地域在住高齢者が持つ生活支援ニーズ量の将来推計方法の確立」、平成28年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「コミュニティの互助促進に向けた行政育成型住民組織の効果的な活動モデルの開発」の一環として実施した。開示すべき COI 状態はない。

(受付 2019.8.29)  
(採用 2020.8.19)

## 文 献

- 1) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング. 地域支援事業の新しい総合事業の市町村による円滑な実施に向けた調査研究事業報告書. 平成26年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分). 東京: 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社. 2015; 2-6.

- 2) 荒井秀典. フレイルの意義. 日老医誌 2014; 51: 497-501.
- 3) 倉田康路. 地域におけるひとり暮らし高齢者の生活ニーズと住民による支え合いへの期待. 西九州大学健康福祉学部紀要, 2013; 44: 81-87.
- 4) 厚生労働省老健局振興課. 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方 <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000192996.pdf> (2019.8.26アクセス可能).
- 5) 厚生労働省. 生活支援, 介護予防等について. 社会保障審議会・介護保険部会 (第47回 平成25年9月4日) 資料. 2013. [http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000021717.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000021717.pdf) (2019.8.26アクセス可能).
- 6) 中村好一, 金子 勇, 河村優子, 他. 在宅高齢者の主観的健康感と関連する因子. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49: 409-416.
- 7) 吉井清子, 近藤克則, 久世淳子, 他. 地域在住高齢者の社会関係の特徴とその後2年間の要介護状態発生との関連性. 日本公衆衛生雑誌 2005; 52: 456-467.
- 8) 日本能率協会総合研究所. 地域における生活支援サービスのコーディネーターの育成に関する調査研究事業報告書. 東京: 株式会社日本能率協会総合研究所. 2014; 16-59.
- 9) 三谷はるよ. ボランティアを生みだすもの: 利他の計量社会学. 東京: 有斐閣. 2016.
- 10) 小林月子. 高齢者の生活支援活動に参加する住民の属性 (1): 大垣市のライフサポーターの属性. 岐阜大学教育学部研究報告. 人文科学 2012; 61: 23-39.
- 11) 馬 欣欣. 高齢者におけるボランティア供給の決定要因に関する実証分析. 日本労働研究雑誌 2014; 643: 70-80.
- 12) 坂本俊彦. 地域包括ケアシステム構築における住民参加の可能性. 厚生指針 2016; 63: 14-19.
- 13) 厚生労働省. V高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービス. 生活支援コーディネーター (地域支え合い推進員) に係る中央研修テキスト. 地域における生活支援サービスのコーディネート機能の構築に関する調査研究事業. 平成26年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分). 東京: 日本能率協会総合研究所. 2015; 65-77.
- 14) 農林水産省農村振興局 農村におけるソーシャルキャピタル研究会. 農村のソーシャル・キャピタル～豊かな人間関係の維持・再生に向けて～. 2007. <http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukei/socialcapital/pdf/data03.pdf> (2019.8.26アクセス可能).
- 15) 星 貴子. 地域包括ケアにおける住民組織の役割と求められる対応. JRI レビュー 2015; 6: 131-155.
- 16) 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 他. 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究 (第2報). 看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004; 15: 17-22.
- 17) 三菱総合研究所. 「中山間地域等の高齢者に対する行政の居住支援, 移動支援のあり方に関する調査研

- 究」報告書。平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）。2019。
- 18) 吉川かおり。社会福祉援助のパラダイム転換「生活支援」の位置づけとアセスメントの枠組みに関する論考。東洋大学社会学部紀要 2005; 42: 101-120。
- 19) 厚生労働省。I 高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービス。生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）に係る中央研修テキスト。地域における生活支援サービスのコーディネート機能の構築に関する調査研究事業。平成26年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）。東京：日本能率協会総合研究所。2015; 3-23。
- 20) 山形県川西町 まちづくり課 情報統計グループ。平成30年度 統計資料 夢と愛を未来につなぐまち山形県川西町の概要。2018。 <http://www.town.kawanishi.yamagata.jp/machinojoho/tokeijoho/2018-3.pdf> (2019.8.26アクセス可能)。
- 21) 山形県川西町健康福祉課介護支援グループ。平成29年在宅介護実態調査結果報告書。2018。
- 22) 奥山尚子。地域ボランティア活動の決定要因—JGSS—2006を用いた実証分析。日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 2009; 9: 107-122。
- 23) 森 保文, 森 賢三, 犬塚裕雅, 他。参加したいボランティア活動の種類と動機の関係。ノンプロフィット・レビュー 2010; 10: 1-11。
- 24) 岡本秀明。高齢者のボランティア活動および友人・近隣援助活動に関連する要因。厚生指標 2012; 59: 14-19。
- 25) 松岡洋子。「生活支援」という用語についての一考察。2016; 137-144。 [http://www.ilc-japan.org/study/doc/b\\_2017p3.pdf](http://www.ilc-japan.org/study/doc/b_2017p3.pdf) (2019.8.26アクセス可能)。
- 26) 内閣府。第2章 4 手助けや福祉サービス等の必要性に関する事項。平成21年度 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査結果。2009; 51-99。 <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h21/kenkyu/zentai/index.html> (2019.8.26アクセス可能)。
- 27) 古谷野亘。地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発。日本公衆衛生雑誌 1987; 34: 109-114。
- 28) 平野美千代。日本における要支援高齢女性の社会活動の概念分析。北海道公衆衛生学雑誌 2014; 27: 123-130。
- 29) 平野美千代, 佐伯和子, 上田 泉, 他。要支援認定を受けた高齢男性の社会活動とその目的。日本公衆衛生雑誌 2017; 64: 14-24。
- 30) 池森康裕。老人クラブ参加者の性別・年齢別の社会参加状況と社会活動への意向。北海道医療大学看護福祉学部学会誌 2014; 10: 15-22。
- 31) 鈴木 広。ボランティア的行為における“K”パターンの解説。鈴木広監修, 木下謙治, 小川全夫編。家族・福祉社会学の現在。東京：ミネルヴァ書房 2001; 274-294。
- 32) 仁平典弘。「ボランティア」とは誰か—参加に関する市民社会論的前提の再検討。ソシオロジ 2003; 48: 93-109。
- 33) 小林江里香。高齢者の社会参加の動向—地域包括ケアにおける支援提供者としての役割に着目して。Geriatric Medicine 2017; 55: 139-143。

## Characteristics of older people willing to offer lifestyle support to other community members living in rural areas with heavy snowfall

Kai ITO<sup>\*</sup>, Hiroshi MURAYAMA<sup>2\*</sup>, Atsuko TAGUCHI<sup>3\*</sup> and Junko OMORI<sup>\*</sup>

**Key words** : lifestyle support, older people, supporter, rural area, heavy snowfall

**Objective** The increasing aging population has increased the number of older people who need lifestyle support because of their declining mental and physical health. In recent years, it has become necessary to increase the number of residents who can provide lifestyle support. It is highly expected that older people, as local residents, will be keen to offer lifestyle support. This study identified the characteristics of older people willing to offer lifestyle support to other members of the community living in rural areas with heavy snowfall.

**Methods** We surveyed 801 people, aged 65 years and above, who lived in Yoshijima, Kawanishi town, Yamagata Prefecture, and were not certified in nursing care levels 1–5. A questionnaire was distributed and collected by the president of the neighborhood association and the head of the neighboring group. Data were collected from June to July 2018. The survey included items on basic attributes, health status, social relations with neighbors, and willingness to offer lifestyle support (eight types). A logistic regression analysis was conducted for each support type, with basic attributes, health status, and social relations with neighbors as independent variables and willingness to offer lifestyle support as the dependent variable.

**Results** We analyzed the data of 586 participants (73.2% valid responses) and found that women were interested in “being a talking partner/consultant in cases of trouble,” “helping with meal preparation/cleaning and laundry,” and “inviting their neighbors to gatherings and events.” However, they were uninterested in “performing outside work such as gardening or fieldwork” and “snow shoveling and removal.” People who felt they were affluent were eager to perform “pick-ups and hospital visits,” and the higher educated were more interested in “being a talking partner/consultant in cases of trouble” and “helping with meal preparation/cleaning and laundry.” Those involved in highly instrumental activities were interested in “monitoring/safety confirmation,” “inviting their neighbors to gatherings and events,” “accompanying their neighbors for shopping or serving as a substitute,” and “pick-up and hospital visits.” Further, except “helping with meal preparation/cleaning and laundry” and “performing outside work such as gardening or fieldwork,” people with close relationships with their neighbors were significantly more willing to offer support.

**Conclusion** The characteristics of older people willing to support others depended on the type of lifestyle support required. This finding could help in the recruitment and facilitation of older people willing to offer lifestyle support.

---

\* Division of Health Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine

<sup>2\*</sup> Institute of Gerontology, The University of Tokyo

<sup>3\*</sup> Faculty of Nursing & Medical Care, Keio University